



# 6月の園だより

令和6年6月1日

目黒区立八雲保育園 園長

## ～自然な関わりから育つ思い～

色とりどりの紫陽花が咲いて、少しずつ梅雨の訪れを感じる季節になりました。

先月から保育参観（3、4、5歳児は保育参加）が始まっています。子どもたちの日常を見ていただけるように小さいクラスの保護者のみなさまには変装しての参観にご協力いただいています。『あれ、いつもと違う雰囲気がある』と感じながらも日頃の姿を見せる子どもたちに、ご家庭とは違う印象を持たれる声も聞かれます。「家では兄妹げんかが多いのですが、園庭で会った時に嬉しそうにしていたのであいう姿もあるのだと安心しました」「まだ歩かない我が子がどうやって戸外で過ごしているのかと思いましたが、園庭に出たらたくさん大きいクラスの子どもたちが寄ってきて声をかけてくれたり、あやしてくれたり関わりを持ってくれてうれしかったです」など、自然な関わりでみんなが笑顔になるエピソードを聞くことができました。自分から大きいクラスの友達へ関わることができなくても、じっと見つめる視線に気づいた子どもたちは「どうしたの、これで遊びたいの」と声をかけてくれたり、自分たちの目の前にいなくても「〇〇組さんもきっと遊びたいよね」「〇〇組さんが遊んでいるかもしれないからそのままにしておこう」など相手の思いを想像して行動する気持ちが育っています。毎日の遊びの中で、相手の思いが感じられるようなきっかけづくりをたくさんしていきたいと思います。

保育参観（参加）当日は、保育園の給食も試食ができますのでぜひ、ご参加をお待ちしています。



### 6月の行事予定

4歳懇談会  
やくもまつり（納涼会）

### 検診予定

耳鼻科検診（3.4.5歳）  
歯科検診（全園児）  
内科検診（全園児）  
眼科検診（全園児）

### 7月の行事予定

プール開き  
七夕  
身体計測 避難訓練

## 夏を元気に過ごすために ～看護師より～



いよいよ夏がやってきます。クラスに顔を出すと、去年の思い出を楽しく話してくれて、今からプールや水遊びなど、夏ならではの遊びを楽しみにしている声が聞こえます。今年の夏は10年に1度の暑さといわれ、子どもにも大人にも厳しい環境が予測されています。高温多湿な日本の環境では特に子どものスキンケアが大切です。スキンケアというと乾燥する冬に連想しがちですが、夏場も重要なのです。子どもは新陳代謝が活発なので汗をかきやすく、汗によって皮膚に炎症が起こるとかゆみを生じます。肌を掻き壊すことでそこから細菌感染を起こしとびひになってしまうこともあります。体温調節機能を養うために汗をたくさんかくことも大切ですが、汗をかいた後は着替えやシャワーで清潔を保つことも必要です。保育園でもシャワーが始まります。毎日の子どもたちのちょっとした変化を見逃さず、ご家庭と連携して心身のケアを丁寧にしていきたいと思います。楽しい夏の思い出を増やすために、夏を元気に乗り越えましょう。

# 最近の楽しい活動～幼児クラス～

## ぺんぎん組（3歳児クラス）

### ～食育活動 きゅうりまだないね～

今年はきゅうりを苗から栽培します。山盛りになっている土の山から素手ですくってプランターに土を入れました。「なんか土って冷たい」「いいにおいがする」と土の感触をしっかりと楽しみながら入れていきました。そしていざ苗を観察していると「あれ？まだきゅうりないね」「これがきゅうりになるの？」と不思議そうにしている子どもたちでした。植えた後には「早くきゅうり食べたいな」「いっぱい食べたい」と今すぐ大きなきゅうりができるんじゃないかと待ちきれない気持ちで、お水をたくさんあげました。これから一緒に水やりや観察をしていき、身近に食材を育てる中で、きゅうりの生長に気づいたり収穫の喜びを感じたりしながら、食に対する興味につながるようにしていきます。



きゅうり  
ないね??



## いるか組（4歳児クラス）

### ～なにつくろうかな～

制作が大好きな子どもたちは、立体的な箱や厚紙など素材の固さに合わせて力加減をし、はさみで切ることが面白いようで夢中で切っています。切った箱のパッケージに合わせて油性ペンで色を塗ったり絵を描いたり「箱の中身までいっぱい塗ったんだよ」と満足そうに保育士に見せてくれます。最近は「紐を付けたいんだけど」と紐をつけてかばんを作ったり、「うさぎにするの」と画用紙を耳や手足の形に切って張り付けたりと少しずつイメージを再現することも増えてきています。保育士も作りたいことを形にできるように子どもたちの話を聞きながら一緒に考えたりアイデアを出し合いながら更に制作を楽しめるようにしていきます。



## しろくま組（5歳児クラス）

### ～どうぶつえんがやってきた～

楽しかった春の遠足。「ぺんぎん組さん、らっこ組さんも動物園に連れて行ってあげたかったね」という会話から「みんなで動物園を作ってあげよう」ということになりました。「ゾウの鼻と握手出来るようにしよう」「トラが口開けたら泣いちゃうかな」と年下の友達に思いを馳せ、姿を想像しながら作ろうとする子どもたち。「きりんの角は前の3本がでてるんだね」「耳は少し丸まってるよ」と動物の本や図鑑を開きながら実際に見てきた動物を形にしようとするからこそ細かい部分まで観察する姿に繋がっています。友達と一緒にイメージを膨らませ思いを交わし合いながら作り上げる過程を存分に楽しみ迎えた当日「抱っこするときは座ってね」「ご飯あげてみる？」と優しく声をかけたり、動物になりきります。喜んでくれた小さなお客さんの姿に「動物も飼育員さんも大変なんだね。疲れたけど楽しかった！」と大満足のしろくま組でした。

